

平成30年10月27日
江戸川区清新ふたば小学校
校長 清澤 好美

H30 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果より

日頃より本校の教育活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

さて、7月に5年生児童を対象に実施した「東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果が出ましたので、本校における状況の分析とともに個票、問題用紙、解答用紙をお返しいたします。ご家庭におかれましては、お子様の得意なこと、苦手なことを把握していただくとともに、間違えた問題については解き直しをしていただくことと苦手な克服につながります。

なお、解答は東京都のホームページにも公開していますのでご覧ください。

☆各教科の表の下段には、お子様の正答率を入れ、学力把握にお役立てください。

*本校の正答率で網掛けされている観点は、東京都より正答率が低いことを表しています。

【国語】

正答率 (%)	A教科の内容						B読み解く力に関する内容				合計
	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	言語	読む	A	取り出す力	読み取る力	解決する力	B	A+B
東京都	93.8	80.9	39.6	53.3	74.1	65.0	71.2	68.4	65.2	68.3	65.5
本校	96.5	85.2	47.9	59.7	75.9	70.0	79.2	81.9	72.2	77.8	71.2
☆											

★正答率の低かった問題(正答率50%未満)

問題	正答率 (%)	内容
6-(1)	37.5	下書きの文にポスターの内容を付け加えるところを選ぶ。(書く能力)
7	48.6	主語と述語にあたる部分を選択する。(言語についての知識・理解・技能)
8-(1)	48.6	修飾語が詳しく説明している部分を選択する。(言語についての知識・理解・技能)
8-(2)	27.8	修飾語が詳しく説明している部分を選択する。(言語についての知識・理解・技能)

<分析>

都の平均に対してすべての内容において上回っていた。特に読み解く力については東京都の平均より10%近く高い正答率が見られた。

しかし、文章の構成や言語についての知識・理解等で正答率が50%を下回る項目が見られ、文章構成力や基礎的な知識、理解が十分でないことが分かった。

<改善策>

読み取るだけでなく、自分で文章を構成して作文する機会を増やす。

また、文法等の基礎的な知識、理解については教科書等を活用して、時間を十分にとって学習する機会を設ける。

【社会】

正答率 (%)	A教科の内容					B読み解く力に関する内容				合計
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	A	取り出す力	読み取る力	解決する力	B	A+B
東京都	87.4	71.6	77.7	60.9	73.5	70.6	70.6	51.6	58.1	69.3
本校	88.2	78.5	78.3	68.5	77.8	72.2	55.6	60.4	62.7	73.7
☆										

★正答率の低かった問題(正答率50%未満)

問題	正答率 (%)	内容
7-(3)	48.6	提示された資料から考えられることを選択肢の中から選ぶ。 (意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力)

<分析>

知識・理解や解決する力は都の平均より高いが、提示された資料から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりする問題の正答率が低かった。

東京都の平均を下回っている「読み取る力」については次のとおりである。

6-(2)の問題では、3つの資料を関連付け、分かることを選択する問題であったが、一部の資料のみを手がかりに選択したり、資料にない内容に基づいて選択したりしている児童の割合が多かった。7-(2)では、2つの資料を関連付け、分かることを選択する問題であったが、同様の傾向が見られた。

学習したことは知識として定着しているが、文章を読んで、それに該当する内容を考えたり、資料を基に選択したりする力に課題があることが分かった。

<改善策>

授業の中で、提示された資料から、読み取れることを書き出したり、そこから考えられることや疑問を導き出したりする学習に取り組む。

【算数】

正答率 (%)	A教科の内容					B読み解く力に関する内容				合計 A+B
	関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解	A	取り出す力	読み取る力	解決する力	B	
東京都	85.0	38.1	64.5	52.9	57.5	52.0	52.0	20.6	31.3	52.4
本校	86.1	44.9	63.5	59.2	60.0	57.6	23.6	34.0	38.4	55.8
☆										

★正答率の低かった問題(正答率50%未満)

問題	正答率 (%)	内容
2-(1)	47.2	63000÷3000の解き方の説明。(数量や図形についての知識・理解)
6-(3)	38.9	1時から5時を3等分し、3つ目の時間の開始時刻を求める。(数学的な考え方)
7-(3)	41.7	コンパスと方眼紙を使ってかける模様を選ぶ。(数学的な考え方)
8-(2)	29.2	資料の情報をもとに表を完成させる。(数学的な考え方)
9-(2)	12.5	うるう年を考慮して2020年7月24日が2018年7月2日の何日後か考える。 (比較・関連付けて読み取る力)
9-(3)	22.2	2020年7月24日が何曜日か考える。 (意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力)
10-(2)	34.7	学年ごとの「やりたい遊び調べ」の表から条件に合った順位や学年を選択する。(比較・関連付けて読み取る力)
10-(3)	45.8	学年ごとの「やりたい遊び調べ」の表から条件に合ったものを選択する。 (意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力)

<分析>

基礎的な計算技能は身につけている児童が多い。しかし、提示された条件をもとに計算したり、作図したりする

問題や、比較・関連付けて読み取る力を問う問題では正答率が特に低かった。

うるう年を考慮して計算を行う9-(2)の問題では、問題にうるう年の説明があるにもかかわらずその意味考慮することなく1年間を365日で計算してしまっている児童や、無答の児童が多く見られた。どのような条件があり、それが問題解決にどう関係してくるのかを判断し、考える力に課題があると考えられた。

<改善>

自分が解いたことのある問題に対する正答率は比較的高いと考えられる。そこで、与えられた条件や見つけた規則から式を考えられるようにするために、学校での既習事項を生かして問題を解決する機会を増やしたり、発展問題に取り組む機会を設定したりする。

【理科】

正答率 (%)	A教科の内容					B読み解く力に関する内容				合計 A+B
	関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解	A	取り出す力	読み取る力	解決する力	B	
東京都	91.0	60.7	64.0	78.4	70.8	71.2	71.2	58.0	66.7	69.6
本校	93.8	65.0	68.1	79.5	73.9	77.8	72.9	63.2	71.3	73.1
☆										

★正答率の低かった問題(正答率50%未満)

問題	正答率 (%)	内容
5	45.8	星座早見の使い方(観察・実験の技能)
6	40.3	ゴムカーをねらったエリアに止めるための考えとして正しいものを選ぶ。 (科学的な思考・表現)

<分析>

基礎的な知識は比較的定着している。観察や実験に使う器具の使い方や問題を解決するために何が必要か考えることに課題が見られた。

<改善>

単元の初めや途中で、前年までに学習した関連する内容を確認する時間を設ける。また、思考力・判断力・表現力を育てるために、学習したことをもとに予想を立て、解決の方法を考えたり、自分の言葉で言葉や図にまとめたりする学習に取り組む。

～全体を通して～

全体的な傾向として、基礎的な事項については理解しており、問題の意図が分かればそれを解決する力についている児童が多いと考えられました。

しかし、資料から出題者の意図に合わせて情報を取り出したり、読み取ったりする力にはまだまだ課題があります。問題を取り出したり、読み取ったりする力をつけるためには、じっくりと資料と向き合い、そこから分かることや疑問に思うことを丁寧に考えることが大切です。学校の授業では、課題の提示の仕方を工夫したり、資料の読み取り方を繰り返し指導したりするとともに、「何を聞かれているのか」(出題者の意図)を考えさせていきます。

また、日常生活においても、常に相手の立場や気持ちを考えながら生活するようにすることで、「話し手の意図」や「出題者の意図」に気付こうとする態度を育てててることができます。これについては、学校だけでなく、ご家庭でもお声かけをお願いします。

基礎的な事項でも国語の文法や理科の実験器具の使い方など苦手なものについては、日常のワークテストの結果の中でも「その単元が終わると忘れてしまう」という傾向がみられるので、教科書を使うなどして繰り返し指導をしていきます。